

1. (2) 第5学年による実践

自分の夢について英語でプレゼンする力を育む授業

—英語でのコミュニケーションを通して必要な学習を見つめ夢を伝える（第5学年）—



自分の将来の夢を実現するために必要なことは何だろう？自分が将来の夢を実現するために、どんな学習や取り組みを重点的に深めていくべきかをワークシートや話し合いを基に考え、夢に向かって時間割を考えていく。友達とのやり取りを通してアドバイスをもらいながら、自分の夢に近づくための学習計画を表現し、目標をもつ授業。

1. 学びの構想

(1) 自分の将来についてのビジョンをもつ

本実践は、各教科の英語での伝え方、好きな学習・勉強したい学習・将来の夢へとつながる時間割設定を題材として扱っている。また、教科書には、イギリス・インド・トルコ・ニュージーランド・オーストラリアなどで学ぶ授業も紹介されており、日本で学ぶ教科との違いが興味深くわかるように紹介されている。

現代の小学校の子供たちの中には、将来の夢をもっていない子供たちが約20パーセントもいるのが現実である。何を目標に日々学習しているのか分からないまま授業に臨んでいる子供がいることもまた事実である。しかし、海外に目を向け日本と異なる文化に興味をもって受け入れようとする態度が大切であることは今も変わらない。海外という存在があまり身近には感じられない昨今だからこそ外国と日本の文化の違いを楽しんで学ぶ機会としたい。

(2) 英語でのやり取りやアクティビティーを楽しむ

5年生は、昨年度まで、英語を用いて友達に自分自身のことを伝えたり、相手の言ったことに対

して“Me,too.”と相槌を打ったり、“Why?”と質問したりすることで英語を使って少しでもやり取りを続けられる場面が設定されてきた。そして、今年度は、外国語活動から外国語（英語）になった。Unit 1～Unit 3では、主に「自分」～自分のことを紹介しよう～ということを目指して学習してきた。Unit 1では、4年生までの既習事項を活用し、自己のことを英語で紹介する時に何を伝えたら自分のことをより詳しく分かってもらえるのかを考えながら名刺作りに挑戦した。子供たちは、自分の名前と好きな物を名刺に書いたり描いたりし、英語でコミュニケーションのやり取りを楽しむことができた。好きな物では、色・スポーツ・食べ物を教科書では取り扱っていたが、ポケモンのキャラクターや動物など自分が紹介したい物を描き、英語で主体的に自分を紹介することにつながった。また Unit 2では、自己紹介の第2弾として、誕生日と欲しい物について取り扱った。この分野では、子供たちは、自分の誕生日はしっかり言えていたが、欲しい物についてはどう表現したらいいのか分からずなかなか伝えることができなかった。そこで、事前に原稿を書き、自分の伝えたいことを表現できるようにした。しかし、今度

は相手に自分の欲しい物を調べて表現できるようになったのはいいが、なかなか相手に単語の意味を理解してもらえず困る子供もいた。つまり、自分が表現できたとしても、相手に単語の意味を理解してもらえなかったら、どのように伝えていいかをしっかりと考えられない子供が多いのである。今後、コミュニケーション活動を英語で行っていく上で、相手が知らない単語をどのように伝えたらよいかを経験していく必要性を感じた。

本実践では、自分が将来なりたい夢を自分自身で考え、その夢を実現するための時間割を I have 教科.の英文を用いて、その中で特にしたい学習を I want to study 教科.の英文で表現し、最後に夢を I want to be a(an) 職業.につなげ、1人ずつプレゼンテーションする学習である。時間割、やりたい学習、将来の夢のわずか3文であるが、すべて将来の夢につながるように根拠をもった時間割を立てるようにした。また、プレゼンテーションをする際に、発表者が自分の時間割や夢を表現しやすいように、ただ、友達のプレゼンテーションを聞いているだけでなく、みんなで質問を投げかけ、子供たちがやり取りを大切にする形式を設定した。

2. 学びのストーリー

(1) 好きな教科・学びたい教科・将来の夢について英語で理解しよう。(第1時)

第1時は、Unit 1 で話した好きな物の復習として学校で好きなことを子供たちに聞いてみた。

A : What do you like in school?

B : I like playing with my friends.

友達って誰のこと？

〇〇さんのことだよ。

B : I like playing with Masa.

A : What do you like in school ?

B : I like school lunch.

A : What do you like in school?

B : I like P.E.

P.E.って何？

体育のことだよ。

A : What do you like in P.E.?

B : Relay.

このように、学校で好きなことを自由に発表し、好きな教科とやりたい学習につないでいった。

その後に、ALT との Small Talk で好きな教科・勉強したい教科・なりたい職業について導入で行ったインタラクションを基にポイントの部分をゆっくりと聞きながら理解していった。この Small Talk では、What do you want to study?と What do want to be?について何を聞いているか、そしてその答え方を聞くことができた。また、ここでは、なぜ、ALT が客室乗務員になりたいのか。客室乗務員になったらどこの国へ行ってみたいかなど JTE がファシリテーターとして間に入り、聞いてみたいこと、知りたいことを引き出した。また、Small Talk で話した好きな教科・勉強したい教科・なりたい職業につながりがあることに気付くことができる児童もいた。

(2) 学びたい教科は何？(第2時)

授業の導入の Small Talk の中に、前時に学習した”What subject do you like?を入れることで、好きな教科の表現を絵カードを見ながら発音していた。また、まだ第2時であるので「moral education では、どんな意味ですか？」などの質問もあった。しかし、すぐ即答はせずに、子供は絵カードを見て、どの授業なのかを理解することにつなげていた。そして、教科の復習やチャンツを通して、教科の発音の仕方に慣れてきた。また、曜日と教科を結び付けるために Small Talk の中に What day do you like?という質問も入れ、モデルトークをした。

子供 : What day do you like?

JTE : I like Monday.

樹 : Why?

JTE : Because I like English.

It's fun.

樹 : I see. Thank you.

You're welcome.

子供たちは、ALT と JTE の好きな曜日と好きな教科、その理由もやり取りを通してしっかりと理解することができていた。そこで、夢につなげるために、どの勉強が必要であるか考えてみよう、そして英語で表現してみようと投げかけ、What do you want to study?の表現を学んだ。(写真1)ここでは、いろいろな学習を I want to study 教科.に当てはめてどこに教科が入るのかを子供たちが気付くようにチャンツを行った。



写真1 第2時の板書

(3) なりたい職業について調べよう(第3時)

前時までに What subject do you like? I like 教科. What do you want to study? I want to study 教科.を学習したので ALT が Small Talk で好きな教科・やりたい学習を英語で表現した後、将来の夢を想像するようにクイズ形式でやり取りを行った。

JTE : What subject do you like?

ALT : I like social studies.

JTE : What do you want to study?

ALT : I want to study math and science.

優 : 社会は好きだけど勉強したいのは算数と理科ってどういうこと?

優 : Why?

ALT : Math and science are important.

ALT : What job do I want to be?

Can you guess?

彩 : 科学者?

英語にしてみると

怜 : Scientist.

JTE : 他には?

太郎 : 薬剤師

JTE : 他には?

優 : Cabin attendant?

将 : 競輪選手?

JTE : なんで、算数と理科、勉強しないとけないの?

将 : う〜ん。

というように、他の職業もたくさんの子供たちがやりたい勉強から職業につなげるように考えながら答えていた。実際、ALT は I want to be a doctor. と答えた。しかし、「医者には、moral education も必要じゃないですか。」「English や home economics や Japanese も必要です。」理由を聞くと、「どうして家庭科が必要かと言うと手術で縫ったりする時必要だと思う。」という意見が出た。「日本語はなぜ必要かと言うと説明がしっかりできないといけないし、英語は外国に行ったり論文書いたりするからです。」という理由であった。

また、「教科ではないかもしれない学習(プログラミング)も必要だと思います。」という意見まで出た。このように職業一つでも夢をかなえるためには必要な教科が子供たちそれぞれで考え方が違うことが分かった。しかし、人によってこれはい

らないんじゃないという意見もあったがそれは捉え方の問題であるのでその意見もしっかりと受け入れて授業を進めた。この後、基本的な職業と将来の夢の表現方法を練習して次時につなげた。

(4) 将来の夢を英語で書いてみよう。(第4時)

第4時 ALT から客室乗務員・医者以外の職業の Small Talk から始まった。次のようにクイズ形式で紹介する活動から始まった。

I like English and Japanese.
I want to study social studies.
What do I want to be?
Can you guess?
I want to be a teacher.

子供たちは、好きな教科、やりたい勉強をヒントに意欲的に ALT がなりたい職業を見つけ英語で職業を答えることができた。

そして、将来の夢の表現に慣れ親しむために子供たちはチャンツや職業カード集めのアクティビティを行うことで基本例文を表現できるようになった。そして、授業の最後にワークシートに自分の将来の夢をやりたい学習からつながるように考えながら書くことができていた。(写真2)

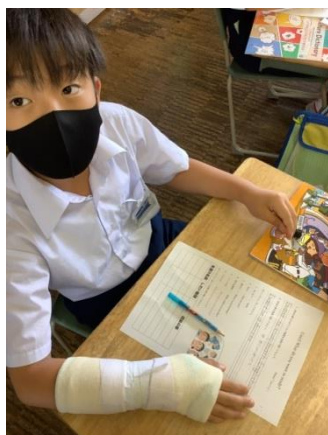


写真2 ワークシートに将来の夢を書く様子

その後に、インタビューのモデルを示し、相手に何を伝えることが大切なのかに重点を置きインタビュー活動を行った。職業が伝わらなかったらどうすればよいのか悩む子供もいた。その時は、どのように表現すればいいか ALT から見本を見せてもらい”What does it mean?”や”Please tell me in Japanese.”のように質問すれば日本語で答えてくれることが分かり、安心してインタビュー活動に参加することができた。(写真3・4)



写真3 インタビュー活動の様子①(話す)



写真4 インタビュー活動の様子②(書く)

(5) 将来の夢につながる時間割を作ろう(第5・6時)

第5時では、日本の学校の授業だけでなく世界に目を向けるために世界の授業について知っているかを問うた。また、自分の将来の夢につなげるためのヒントにもなると思い子供たちにこんな授業があると紹介した。教科書には、ドラマ(イギ

リス)、ヨガ (インド)、環境 (トルコ)、手話 (ニュージーランド)、日本語 (オーストラリア) のような授業が掲載されている。そこで、優は「ドラマって授業はなぜあるんですか?」と質問してくる。確かに日本の学校に通っていれば思い浮かぶ疑問である。「イギリスでは、シェイクスピアのような劇作家が生まれているし、ドラマを通じてコミュニケーション力や表現力などを磨くんだよ。」と言うと難しそうな表情をしていた。また、雅は「手話はできるからやってみたい。」と言っていた。海外と日本の学校での違いを知ること興味をもつ子供もいた。そして、その他にどんなものがあるかALTの出身であるフィリピンにはどんな授業があるか聞いてみた。すると、道徳に似た行儀・品行や英語の授業が多い特徴があること知って子供たちは驚いていた。これらのことを鑑みて将来のためにどんな学習があるとよいかクラスで考えてみた。そうするとプログラミング、医学、薬学、職場体験、お金の勉強、機械工学などの意見が出てきた。夢に繋がるように専門的な授業を取り入れてほしいのが伝わってきた。そして、自分たちで考えた授業も含め夢につながる時間割を一人一人が立ててみた。(写真5・6)



写真5 夢につながる時間割を書く様子



写真6 将来の職業を絵に描く様子

(6) 時間割について話し合おう (第7時)

本時が、将来の夢のプレゼン前の最後の授業であることを確認し、本時の時間では夢につながる時間割を終えた子供からグループになって友人同士で本当にその時間割が夢をかなえるためにつながるのかを話し合うように促した。(写真7・8)

理沙：動物園で働くのに home economics って必要？

怜：動物の食べ物など考えるのに必要だと思う。

理沙：なるほど。じゃあ、Japanese は？

怜：動物を説明するのに必要だし、それに加えて生き物について学ぶ science も加えているよ。



写真7 将来の夢について話し合う様子①



写真8 将来の夢について話し合う様子②

授業の最後の方で次時にやるプレゼンテーションのモデル映像を視聴した。映像を見て、「大きな声ではきはきと言っている」とか、「ゆっくり伝わりやすいように表現している」など、自分なりに良い点を見つけ、次のプレゼンテーションの目標をもち授業を終えることができた。

(7) 将来の夢のプレゼンをしよう(第8時)

いよいよ将来の夢のプレゼンテーションの日である。出席番号順で、みんなの前で発表する場を設けた。また、子供たちが困らないように練習時間と黒板に表現を以下のように書いておいた。

Presentation of my dream

A : Hello!

B : Hello. What subject do you have?

A : I have ～,～,～,～,～and ～.

B : What do you want to study?

A : I want to study ～.

B : What do you want to be?

A : I want to be a (an) ～.

B : Good luck!

練習時間に子供たちは少し緊張していた。しかし、子供たちは、一人一人のプレゼンテーションを見るうちに自分から分かりやすくする工夫をするよ

うになってきた。(写真9・10)授業の最後には、同じ時間割であっても目指す夢が違っていたり、反対に違う時間割でも目指す夢が同じであったり、人それぞれ何を勉強すべきかに対する考え方に違いがあることに驚いたり興味を抱いたりしていた。この授業を通して、子供一人一人が夢に向かって何を努力すべきかを友達のアドバイスも参考にしながらこれからの学習に生かして欲しいと思う。

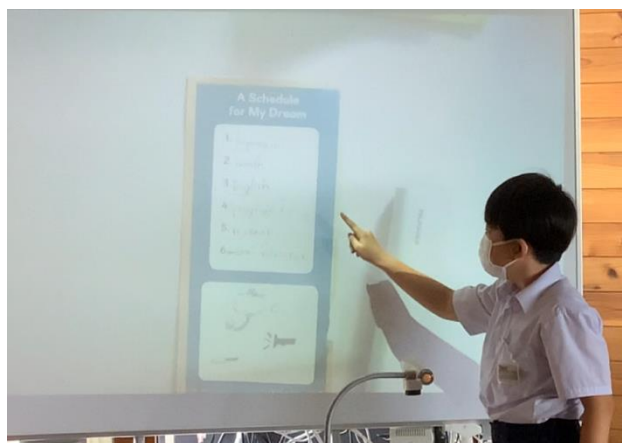


写真9 スクリーンを指しながら説明する様子



写真10 時間割を指しながら説明する様子

3. 省察

英語を使って『他』と関わることの場の設定

本実践では、将来の夢を考える際に、教師がファシリテートしたり、子供同士で話し合ったりする活動を盛り込んだ。しかし、習っていな

い英語表現に関しては挑戦してみようという気持ちではなくて、日本語を話してしまうことが多々ある。その中でも獣医 (vet) ことを animal doctor という表現をしたり、ジェスチャーで表現したりすることで日本語を使わずに何とか伝えようとする子供も見られる。また、ALT や JTE が、Unit1 からの既習事項を英語で表現しながら自然と話していく機会を設ける必要性もある。特に、I like ~. の表現は、3 年生から何度も表現しているのでどの子供もすぐに話することができる。しかし、like だけでは、英語を用いて『他』とのかかわりを深めることができず浅い交流になってしまう。

また、『他』とのかかわりを深めるためには、英語を使う必然性のある活動を行う必要がある。つまり、かかわりを深めるためには学習意欲をより高め、コミュニケーションをする必然性のある活動を設定することが不可欠であると考え。そこで、本実践では、『他』（学級の友達）をかかわることをメインに学習してきた。そして、学級の友達だけではなく、ALT に教える、後期課程の生徒と話す、海外の学校と交流するなど徐々に幅を広げていき世界感を広げることが学びの価値を繰り返し上げていくことにつながっていくのではないかと考える。そのために、これからの授業でも、教科書の内容を押さえていくのではなく、子供たちと英語を活用しながら教科書を作っていくような授業をしていきたいと思う。

(西本 健悟)